

JR 東海は市民の不安や疑問の声を無視して、 「リニア計画の「見切り発車」は許されない

JR 東海は、去る9月18日に環境影響評価（アセスメント）準備書を公表し、市内11回の説明会は10月18日に鳥屋地区会場を最後に終了、並行して実施された準備書の縦覧と意見募集は11月5日に終了・締め切られました。

「リニア相模原連絡会」はJR東海の準備書に対する意見募集について、会員、市民に個人でインターネットおよび郵送による提出を呼びかけたほか、団体扱いとして883名分の意見書を取りまとめ、JR東海に一括郵送しました。



提出意見者数：883名
提出意見数：7,337件
(団体扱いでの一括郵送分)

提出意見書から

抜粋

意見書では、説明会の内容をふくむ環境影響評価に対する多くの意見、多くの市民の不安や疑問が提出されています。勝手ながらその一部を抜粋して紹介します。

説明会 の感想

●説明会のやり方が大きく間違っていると感じました。

工事の方法や騒音の予測値、環境汚染に全く問題ないことを細かい数表をだして、延々と1時間も説明し、質疑応答はたったの30分間で、一人3問までと制限するありさま。時間配分はこの逆が当たり前です。

●限られた時間内とはいえ、書かれた原稿を読み上げるだけの一方的な説明で質疑応答に至っても、およそ質問者の求める市民の目でみた問題提起に至らず、一人の回答者の瞬間的な言い回しに終始し、配布された資料でもほとんどの項目に“適切に処理します”“工夫・検討する”“影響は小さいと予測します”といった官僚用語の羅列に終始し、**どれをとっても客観的、技術的な裏付け資料的解説は見当たりません。**こんなことで9兆円にもおよぶ大事業がスタートできるのか、JR東海の葛西会長の夢物語に社員がつき合わされているだけではないか、といった感すら憶える場面がありました。

●玄関前（鳥屋地域センター）に並んだ多数のJR東海職員であろうか、まるで丁重なるもてなしに見えるはずが威圧を感じ、なにか突発的な騒ぎの抑止力のように思えた。また、テープで流す内容にも「許容の範囲の数値である」との連発で、これが車両基地計画に関した地元にたいする説明かと思うと理解もできなければ参加した意味もないお粗末なものであり、示威を表したのみであった気がする。

<意見> 事業計画について

○一旦走り出せば途中で止まれないのが日本の公共事業です。スタートした後では遅いのです。日本の国土だ、その場所の周辺住民だけでなく全ての国民、現在と未来の国民の財産です。「想定外」の災害が多発する今の日本。環境に巨大な負荷をかけるおそれのあるリニアの計画は、「石橋を叩いて渡る」慎重さが不可欠です。(女性)

○将来性（駅周辺の活性化を含めて利用者が果たして多いのか）、安全性を危惧しながら建設を進めることに反対である。リニア建設は本当に日本国民全体の悲願なのだろうか。見切り発車して、将来に禍根を残すことは絶対にあってはならない。(女性)

<意見> 車両基地について

- 「影響が小さいと予測します」とは、もっての外。まとまりのある谷戸自治会員の感情を無視し、この地域で絆を大切に、皆で協力しながら一生を終えようとする。生活設計の破壊と言えます。代償では済まされない。心の痛みは深くなるばかりである。(女性)
- 帰る家を失い、先祖代々の墓も失い、反対してもでていかなければならぬのなら新しいふる里になる場所での生活を住民全員が納得できる補償を強く望みます。(女性)
- 何百年もの間守り続けた裏山(上ノ山)の緑の森林を農地を絶対守る。自然への畏敬と感謝の念を持って、暮らしている。生活と伝統文化を残さなければならない。(男性)
- 工事用車両の交通量は、ピーク時には一日あたり千台強になるとのことだが、道路は狭く、歩道未整備箇所は殆んどを占めている地区にあっては、通学上、生活上、交通の安全を確保できない状態となる。大問題である。誘導員を数カ所に置けば済むという問題ではない。また、静かな地区に騒音、振動、排気ガスが溢れることになる。基準以内の騒音だから問題ない、というようなことではない。静かな環境が掻き乱されることになる。(男性)

その他意見、

- (電磁波、工事車両の影響について)小倉地区の子どもを育てている主婦です。小倉地区の小学校から何キロも離れていない場所に、リニアの変電所が立つと聞きました。自宅からも近い所に立つとのことなので、子どもたちは24時間変電所のそばで暮らすこととなります。そしてリニアが通っている時間帯は、ずっと電磁波被曝することとなります。今まで子どもたちに電磁波被曝させたくなくて、オール電化にもせずに暮らして来ましたが、ただでさえ小倉地区は、さがみ縦貫道建設工事のダンプカーが朝の通学時には1時間に600台近く通る中、子どもたちは30分歩いて学校に通います。マスクしないと息も出来ないような道を6年間通います。これ以上リニア工事や変電所建設のダンプや工事車両が増えるのは堪えられません。(女性)
- トラックが多くて息がくるしいです。もうこうじとかが入るのはいやです。(小1男)
- (電力消費について)リニア新幹線は在来新幹線の3.5倍の電力を消費します。このような浪費とも思えるような電力を消費する計画は国民感情と遊離しています。リニア新幹線建設の再考を求めたいと思います。(男性)
- (水資源について)山梨実験線で水枯れが発生しているが、これの検証がなされていません。地下の水脈を破壊した場合、その修復は不可能です。たいへんな自然破壊になります。(男性)
- 神奈川～山梨ルートは県民の大事な「水がめ」地域です。県民全体の命の問題です。(女性)
- (生態系調査について)“街のなかのオアシス”自然豊かな相原高校は理想的環境です。多くの動植物が生息し地域の大切な場所を失ってはならない。調査せよ。(女性)

リニア準備書に関する神奈川県環境影響評価審査会始まる

先月10/28にリニア中央新幹線の環境影響評価(アセスメント)準備書について、県環境影響評価審査会(益永茂樹会長)による審査が始まりました。神奈川新聞(10/28)の報道では、県環境計画課によると、審査会は月1回のペースで開かれ、通常は半年～10カ月程度で答申をまとめ、黒岩祐治知事に提出する。この日、横浜市中区内で開いた審査会では、JR東海側が県に提出している準備書の概要を説明。その後、大気や都市計画、廃棄物など各分野の専門家で構成される委員から、準備書への疑問点などが指摘された、とあります。
<連絡会メンバーが当日午後、審査会委員が鳥屋地域を視察しているところを見かけています>

◆平成25年度第5回神奈川県環境影響評価審査会審議速報(★審議結果公開は11月下旬)

神奈川県のホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f247/p716059.html>

◆次回、第6回神奈川県環境影響評価審査会開催予定日

11月25日(月)18時00分～20時00分(産業貿易センター7階 720号室)

神奈川県のホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f247/p473509.html>

発行者：浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本2-6-2 (TEL:090-4378-9257)

編集責任：中野渡 旬 相模原市緑区東橋本3-19-8-309 (TEL, FAX:042-712-7077 mail: MHA01005@nifty.com)